

「JENESYS2.0」

香港・澳門高校生訪日団

訪問日程 平成 28 年 12 月 13 日（火）～12 月 21 日（水）

1 プログラム概要

香港特別行政区政府教育局及び澳門特別行政区政府教育暨青年局が派遣した香港・澳門高校生訪日団（香港団団長：戴德正 聖公会鄧肇堅中学 校長、澳門団団長：劉麗妹 化地瑪聖母女子学校 校長）計 101 名が、12 月 13 日から 12 月 21 日までの 8 泊 9 日の日程で来日しました。

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、代表団は東京・京都・滋賀・愛知・三重・静岡にて、学校交流やホームステイを通じて、日本の高校生や市民との親睦を深めました。また、日本の科学技術・歴史・文化等様々な視察・見学を通じ、クールジャパンに直接触れ、日本に対する包括的な理解を深めました。

2 日程

12 月 13 日（火）

成田空港より入国

12 月 14 日（水）

オリエンテーション、マンガ・アニメから見た日本文化に関する講義、
上智大学訪問、歓迎会

12 月 15 日（木）

香港グループ：京都へ移動、金閣寺見学、伏見稲荷大社見学
澳門グループ：京都へ移動、清水寺見学、三重へ移動

12 月 16 日（金）

香港グループ：比叡山延暦寺見学（1 号車）、京都市立紫野高等学校訪問・交流（1 号車）、
滋賀県立国際情報高等学校訪問・交流（2 号車）
澳門グループ：三重県立名張西・名張青峰高等学校訪問・交流、奈良へ移動

12 月 17 日（土）

香港グループ：近江八幡重要伝統的建造物保存地域見学、彦根城見学、ホームステイ（滋賀県日野町）
澳門グループ：奈良公園・東大寺見学、奈良国立博物館見学、ホームステイ（奈良県明日香村）

12 月 18 日（日）

香港グループ：ホームステイ（滋賀県日野町）、愛知へ移動、トヨタ産業技術記念館見学
澳門グループ：ホームステイ（奈良県明日香村）、静岡へ移動

12 月 19 日（月）

香港グループ：名古屋市立名東高等学校訪問・交流（1 号車）、名古屋市立向陽高等学校訪問・交流（2 号車）
澳門グループ：静岡県立三島北高等学校訪問・交流

12 月 20 日（火）

東京へ移動、先端技術館 TEPIA 見学（澳門グループ）、商業施設視察、歓送報告会

12 月 21 日（水）

羽田空港より帰国

3 写真



12月14日 マンガ・アニメから見た日本文化に関する講義（東京都）



12月14日 上智大学訪問（東京都）



12月14日 歓迎会で澳門高校生がパフォーマンスを披露（東京）



12月16日 京都市立紫野高等学校訪問・交流（京都府）



12月16日 滋賀県立国際情報高等学校訪問・交流（滋賀県）



12月16日 三重県立名張西・名張青峰高等学校訪問・交流（三重県）



12月17日 滋賀県日野町ホームステイ
(滋賀県)



12月17日 奈良県明日香村ホームステイ
(奈良県)



12月19日 名古屋市立名東高等学校訪問・交流
(愛知県)



12月19日 名古屋市立向陽高等学校訪問・交流
(愛知県)



12月19日 静岡県立三島北高等学校訪問・交流
(静岡県)



12月20日 歓送報告会で訪日の成果を発表する香港高校生（東京都）

4 参加者の感想（抜粋）

○一番記憶に留める価値があると思うことは、ホームステイだ。たった一泊二日でも、日本の伝統的な家庭の生活習慣を深く体験できた。

私が泊まったのは郊外の家庭で、夫婦は高齢だったが、交流には支障なかった。特に、おばあさんは私たちのためにピンクのスリッパを4足、ピンクの布団を4組、タオルを4枚、これらはすべて私たちのために用意されたもので、大変気を遣ってくれた。更にすごいのは、一日余り一緒にいただけなのに、その環境に溶け込むことができたことだ。言葉は通じないし、互いに片言の日本語と見慣れない英語のアルファベットを書いて意思疎通を図った。でも、抱き合い、手に手をとって針仕事を教えてもらい、一緒に涙を流すなど、ジェスチャーで互いの愛を伝えることができた。この気持ちは本当に趣深く、見ず知らずの人同士が、JENESYS2.0を通じて知り合い、互いを気にかけて成長するとは、なんて感動的なのだろう！こんなに短い間でも、日本人の普通で素朴な家庭生活を知ることができ、更におにぎりやお餅など簡単な料理も体験できた。これもすべてみんなで力を合わせて努力するという精神のおかげで、香港では数少ない団体生活だった。香港人は「スピード」を求めるあまり、時間を「共同作業」に割くことは稀だ。また、身近な人に「ありがとう」と言うことを忘れている。日本の家庭で体験した「親しき中にも礼儀あり」や「協力」は、香港へ持ち帰り広める価値がある！生活の中の些細なことが、実は大きな満足感を与えてくれるのだ。JENESYS2.0には家族同士の関わり方について、改めて考える機会を与えてくれたことに感謝したい。

○一連の交流を通じて、日本の新世代への理解を深めることができた。初めて京都市立紫野高校を訪れて、日本の新世代の教育モデルは非常に多様化・西洋化していると感じた。アクティブ・ラーニングが取り入れられ、生徒に着物の着付けを通じて、昔の服飾文化を学ばせていた。黒板と話（板書と講義）だけの授業より面白かった。また、その教育は教師主導から徐々に生徒主導に変化し、これは同校の応援団の自主練習や、名古屋市立名東高校のイングリッシュ・コミュニケーションの授業での生徒主導によるディスカッションでも見て取れた。新世代と数世代前の世代とでは、活力も積極性も情熱も異なり、新しい発見があって、日本に対する認識が、固定観念にとらわれず、通り一遍ではなくなった。

一番印象深いのは学校訪問での交流だ。まず、日本の生徒は規律意識が非常に高い。授業態度も真面目で、その授業や学業と関係のあることだけをやり、一心不乱に学んでいる。授業の合間には、さっと教科書を片付け、次の授業に必要な物を用意し、急いで教室へ向かい、始業時刻を守る。私ともう一人の団員のホスト生徒2名は、私たちの世話をしていた遅刻してしまい、走って教室に行き、教室に着くとすぐに先生にお辞儀をして遅刻したことを詫言った。また、学校ではスマートフォンの使用を認めていたが乱用する生徒はおらず、授業の合間や昼休みに、気晴らしに少し触る程度に止めている。これらは日本人の規律意識を感じさせ、時間や規律の遵守、その背景には他人や自分に対する尊重と高い期待、交際に対する重視があることが理解できた。

次に、日本人の情熱的な一面を感じた。イングリッシュ・コミュニケーションの授業の時、私は黒板の前に立ち、英語でみんなの質問に答えた。みんな英語は拙いながらも、懸命かつ熱心に質問してくれた。また、みんなの間に座っていた時、勉強以外の日常や面白いことについても話した。例えば、クラスのある男子生徒について、香港の女子生徒の好みのタイプかどう

か、などだ。そのお蔭で、私はクラスの一員として溶け込めた気がした。また、黒板や入口に「歓迎」と書かれていて、心がなごみ感動した。これにより、日本人の控えめなイメージが変わり、心から彼らの情熱と真心を感じることができた。以上の多様化した日本の優れた素質を周りの人と共有したい。

○今回の訪問で一番印象深いのは、ホームステイ先で見聞きしたことだ。きっと一生忘れられない思い出となるだろう。

私たちのホームステイ先は他のホームステイ先の考え方とは違い、特別な体験や特別な場所に連れて行くことはせず、実の娘のように家事や子供の相手をさせたりして、日本の一般家庭の極普通の日常生活を理解させてくれた。また、隣の家畑に行って野菜を取らせてくれ、農村では隣人同士が物を無私で共有し、助け合いの精神があることが理解できた。このことで、香港での自分が人情味に欠けていると反省した。

夜、夫妻は自分たちの考え方や価値観を話してくれ、大きな学びを得た。彼らがホームステイを引き受けた理由は、彼らの子供が小さい頃から異なる文化・言語・価値観の人と接して思考力を育み、成長の糧とするためだそう。私は、子供の健全な成長に対する夫妻の配慮のすべてが素晴らしいと感じた。彼らは子供たちに直接教えるのでも命令するのでもなく、適切な方法で子供をサポートしているのだ。また、東京から田舎へ引っ越してきた理由と経緯についても聞かせてくれた。彼らは大衆に流されて仕事や物のために都会へ残るのではなく、家族や自分が本当に楽しいと思えることのために、この田舎暮らしを選んだのだ。私は改めて自分が求める生活について考えさせられ、自分が社会の定義する楽しみに盲目的に追従し、生活していることが分かった。

この経験は、またとない体験をさせてくれたと共に、私たちが学ぶに値する異なる価値観についても知ることができ、改めて真剣に人生を考え直すことができた。ここで感じたこと、学んだことを周りの人と共有し、彼らにもその意義を理解して欲しい。

○今回の訪問で一番印象深いのは、ホームステイだ。私にとって初めてのホームステイはとても新鮮であり、心配でもあった。何故なら、私は日本語ができないし、日本人の英語のレベルはあまり高くないので、コミュニケーションで言葉が障害となるのは避けられないからだ。わくわく、ドキドキしながらホームステイ先へ向かい、到着するとホームステイ先のお母さんが着物姿で出迎えてくれ、その優しい笑顔を見てようやくホッとした。お母さんの着物姿を見て、着物を着た理由を聞いた後、現代の文化保護問題について改めて考えさせられた。何故、文化を保護し続けられる人もいれば、経済重視で文化を軽視してしまう人もいるのか？ある地方の文化には一文の価値もないのか、それとも重視する価値がないのか？国の文化保護は、その国民の素質を非常に適切に表しており、更にその観念を次の世代へと引き継いでいくことができるのだ。

また、ホームステイ先の家族は、私たちを家族のように扱う必要はないはずなのに、一晩一緒に過ごただけでも彼らの温かさを感じ、本当に感動した。別れは本当に名残惜しく、人と人の関係はすぐに築けるが、それを長く維持することは非常に難しいと分かった。帰国したら、周りのクラスメート、友人、家族などに今回の交流で見聞きしたことを伝えるつもりだ。例えば、さまざまな社寺について理解したこと、その歴史背景など、日本の高校での高校生との交流や理解したこと、ホームステイでの体験、みんなに日本の異なる一面について話し、人と人

との関係維持、日本人のおもてなし、真面目さ、温かさ、もてなし好きなこと、時間や規律を守るなどの態度や観念などだ。

○今なお記憶に新しいのは、名古屋市立名東高校での交流だ。日本の高校生は、言葉や文化の障害にこだわらず熱心に話しかけてくれ、先生やクラスメートは、ちんぷんかんぷんの授業の内容を辛抱強く説明してくれた。例えば、数学の授業で積分の計算をしていたが、私はまだ習っていなかったの、先生は丁寧に説明してくれ、とうとう私は積分の問題が解けた。この経験は深く脳裏に刻まれた。先生やクラスメートの懇切丁寧な態度だけでなく、私にとって不利な条件下で、積分という難しい問題を他の生徒と同様に学べたからだ。香港でのことを思い出してみると、それよりもっと簡単な問題でも、いろいろと口実を設けて学ぶことを避けている。だから、この経験を話すことで周りのクラスメートを励まし、学ぼうという勇気があれば、どんな困難な問題も解決できないことはないと思いたい。

○今回の訪問で最も印象深いのは、ホームステイ先で過ごした一泊二日だ。言葉は通じなくても、ホームステイ先のお父さんとお母さんは、楽しく私たちと意思疎通を図ってくれた。お父さんが鐘をつきに連れて行ってくれた時は本当に嬉しかった。何故なら、またとないチャンスだったからだ。また、私たちが寒くないようにと沢山布団を用意してくれ、私たちの夢をしっかり覚えて、何度も励ましてくれた。お父さんのある一言がとても印象に残っている。「夢があることはとても良いことだ。でも、夢を実現することは決して簡単ではない。それには努力が必要だよ」。この一言で随分勇気づけられた。まるで実の両親のように親身になって気にかけてくれた。

今回の訪問では多くの収穫があった。今回の交流について全部、周りのクラスメートや友人と共有したい。みんなに日本の文化、特に温泉に入る時の作法について教えたい。何故なら、多くのクラスメートや友人が温泉に入るのをためらっているからだ。でも、きちんと説明を受けたら入ってみたいと思う。また、みんなにもっと環境保護に関わるよう勧めたい。交流の中で、日本では都市や国の誰もが環境保護の責任があると考えていて、みんな真面目に取り組んでいると聞いた。昔、工業が原因で環境が著しく破壊されたが、日本人の努力の結果、日本はずっと綺麗になった。また、日本人の礼儀正しさと細やかさには感心した。これらすべてが学ぶに値する。

○今回の訪問で最も印象深いことは、ホームステイ先での生活体験だ。私は今回の活動をずっと楽しみにしていた。しかし、日程表を見てたった一晩しかないことを知り、思わずがっかりしてしまった。日本人の生活を深く理解できないのではないかと思ったのだ。でも、この一日でホームステイ先の両親と絆を深め、涙を流して別れを惜しんだ。私たちは三度の食事の準備を手伝わなければならず、普段ほとんど料理をしない私にとって少し大変だった。でも、他の団員と助け合い、ホームステイ先のお母さんが教えてくれたお蔭で、私たちは美味しい料理を作ることができた。もっと重要なのは、何の違和感もなく、まるで彼らの実の娘のように自然と振る舞えたことだ。また、お父さんと一緒にゲームをした時、幼い頃のことを思い出した。幼い頃、私の両親は親子のイベントにいつも付き添ってくれていたが、大きくなってからは、それぞれ自分のことで忙しく、一緒に食事する回数もかなり減ってしまった。今回の生活体験は、家庭の温もりを改めて感じる良いきっかけになり、日本の家庭生活が気に入った。

私が周りの人に伝えたいことは、日本人はみんな辛抱強く、老いも若きもみんな時間を割いて人に教えることを厭わず、人の話に熱心に耳を傾け、異なる言語でも相手の話をじっくり聞いて交流してくれたことだ。間違えていたり分からないことがある人に、責めるような口ぶりや目つきはせず、辛抱強く、優しく間違いを正してくれる。これは香港とは大きく異なる点で、私たちがしっかり学ぶべき点だ。

○今回の訪問で、一番印象に残ったのは文化財保護と環境保護だ。帰国したら、学校のクラスメートと次の2点について日本で見聞きしたことを共有し、彼らにも足りない所を補って欲しい。

まず、文化財保護について、日本政府は文化財や遺跡にある昔の建物をそのまま保存し、参観できるようにしている。一方、香港では100年以上の歴史遺産がほとんど残っていない。日本の文化財・遺跡には数百年、千年の歴史があるものもある。それに比べ、香港が後世に残せるものは本当に少ない。香港は狭くて人が多く、政府は古い建物を取り壊して販売用住宅を建てざるを得ないため、香港の歴史はすべて消滅してしまった。このため、香港の社会は団結しづらくなった。何故なら、現地の文化が消滅して外来文化が溢れ、人々は次第に自分中心で身勝手になり、自分たちの歴史に誇りを持たず、現在の香港と言えばビジネス街という印象で、香港の文化を知っている人はほとんどいないためだ。私たちは警鐘を鳴らし、政府は文化財保護の問題を直視し、香港の文化を救うべきだ。

次に環境保護について、香港には「三色のゴミ箱」があり、ゴミを分別回収しているにもかかわらず、何故、日本や台湾に遠く及ばないのか。それは、香港人は環境保護への取り組みが真剣ではなく表面的に過ぎず、日本の学校や家庭では太陽光発電設備や水の再利用施設があるが、香港には一つもないからだ。環境保護は表面だけ取り繕うのではなく、日常生活に取り入れてこそ徹底できるのだ。

紙面に限りがあり、見聞きしたことすべてを詳しく書ききれないが、まとめると、日本の環境保護と文化財保護の分野での貴重な経験を香港も参考にして実施し、「一人一人に責任がある」という概念を周りの人に伝え、みんなにも失われつつあるものを改めて見直して欲しい。

○今回の行程で一番印象に残ったのは学校交流だ。全く見知らぬ所で同じ年代の人と知り合ったことは、本当に素晴らしくワクワクすることだった。はじめに、滋賀県の高校を見学した。学校の施設はそれほど先進的ではなかったが、溢れる人情が私たちの心を温めてくれた。日本の生徒と先生は、マジックや椅子取りゲームなど素晴らしい出し物を用意して教室で待っていた。僅か数十分の間に、彼らが友好的で善良だと感じられた。香港に対しても好奇心一杯で、香港の生活について次々に尋ねてきた。名古屋市立向陽高校ではエリート校の雰囲気には惹きつけられた。授業中も交流の時も、研究成果や地質構造の分析など、卓越した科学と数学の知識が現われており、大きな収穫を得た。

旅館・通り・車中・学校のどこでも、日本人の素晴らしい礼儀作法の教育と自律の精神を深く感じる事ができ、これも香港で広めたいと思ったことの一つだ。通りでも旅館でも、毎日元気よく挨拶してくれ、素晴らしい一日になるよう祈ってくれた。地元の日本人に挨拶すると、彼らも自ら温かい笑顔で挨拶を返してくれた。日本に来たら必ず覚えるべき言葉は「こんにちは」「ありがとう」「すみません」だ。これらは日本人がよく口にする言葉で、ここからも彼らが「礼」を非常に重んじ、決して礼を失することはないと分かる。今回の訪日では科学の知識

や礼儀の文化だけでなく、あらゆるものを大切にすることを学んだ。

○最も印象深いことは、名古屋市立向陽高校での交流とホームステイだ。同校は都会にあり、そのためキャンパスは比較的小さく、裕福な学生が多い。科学教育に力を入れており、全国でも模範的な学校だ。私は特に同校の科学教育が気に入った。科学の他に、英語とスピーチの技術も重視している。これは科学における国際交流を効果的に促進するので、私はこの方向性は正しいと思う。ここからも日本が謙虚で他国から学ぼうとする姿勢が見て取れ、日本の科学が急速に進歩した理由の一つだと思う。また、同校のキャンパスは、活力ともてなし好きで友好的な雰囲気 に溢れていた。校内を見学している時、実験室にいた生徒が自主的にテーマ研究に取り組んでいる様子を見て、私も計画から実験まで全て自分で一つの研究を完成させる機会があればいいと思った。

ホームステイについて、あまり具体的に書くことはできないが、滞在中ずっとホームステイ先のお父さんとお母さんの思いやりを感じることができた。言語の違いは障害にはならなかった。日本人の生活を体験できて本当に嬉しい。

○最も印象深いのは、交流活動とホームステイだ。

学校交流について、私たちは三重県立名張西・名張青峰高校と静岡県立三島北高校の2校を訪問した。訪問中、私たちはその高校の生徒として授業を体験した。例えば、澳門の学校では校外で昼食を済ませた後に学校へ戻って授業を受けるが、日本の生徒は一日中学校にいて放課後に帰宅するまで家に戻らないので、昼食はお弁当を持参するか、学校の購買部で買い教室に戻って食べるか、学校の食堂で済ませる。日本の学校は上履きに履き替えて教室に入るが、澳門の学校は校内でも靴のままだ。日本の生徒は校内の清掃をするが、澳門では清掃員のおばさんが掃除する。

ホームステイについて、日本人はトイレを使用する時、部屋で履くスリッパとは別に専用のスリッパがあり、それに履き替える。日本の家庭ではみんな自分の着物を持っているが、中国では自分のチャイナドレスを持っている人はいない。日本人は食事の時、おかずや使う道具が多く、食べ物それぞれに専用の道具がある。日本の素晴らしい伝統文化、人々の風格を澳門のみんなと共有し、みんなにも歴史に束縛されず、過去の日本の凶暴な一面を拭き去り、穏やかな気持ちで日本人と接して欲しい。

○一番印象に残ったこと

1. 建物の色調が景観と馴染み、心地良い感じを与えている。ここまでできている国は初めて見た。
2. 交通が整備されている。新幹線が全国に敷設されているほか、高速道路にも高架が数多く設置され、交通の流れが分散され、交通渋滞が緩和されている。
3. 国民の意識が高い。例えば、規則遵守の意識が高い（例えば、エスカレーターでは片側を空けて立つ）。犯罪率が他国と比べ低い。日本人は大変礼儀正しく、何事も疎かにせず効率的だ。
4. ホームステイ。ホストファミリーの温かいおもてなしを受け、彼らがもてなし好きで、情熱的で純朴なことが伝わってきた。でも、たった一日しか滞在できず、もっと長く滞在したかった。

伝えたいこと

1. 我が国の規則遵守を強化する。例えば、決まりを守らない人を見かけたら、日本人の意識を思い出し、その人と自分を戒める。
2. 自ら礼儀を始め、自分の礼儀と効率性を高め、周りの人を感化する。
3. 日本の学校の生徒の多元的发展を広く伝え、生徒に部活動への参加を勧め、生徒が多元的に成長できるようにする。

○まず最も重要なのは、日中友好会館により派遣されたスタッフが道中ずっと同行し、バスの中で日本やその文化に関するさまざまな知識を紹介してくれたので、私たちの知識が増え、本当に感謝している。

今回の訪問で最も印象深く、収穫が多かったのは、一日にも満たない明日香村でのホームステイだ。滞在時間は短く、私たちの日本語も彼らと長く話せる程十分ではなかったが、まるで実の子供のようにとても親切にもてなしてくれた。見ず知らずの間柄だったのに、家に着くと実の家族のように接してくれ、とても温もりを感じた。家族ができた気がした。ホームステイでは、ご主人が私たちを丘に連れて行ってくれ、歩きながら日本の歴史や文化について説明したり、風景を見たり、いろいろな花や木の特徴を教えてくれたりした。見学し終わって家に帰ると、盛り沢山の和食の料理が用意されていて、それは本当に温もりを感じた瞬間だった。出会ってから間もない「見知らぬ人」にこんな心遣いをし、可愛がってくれて、私たちにはなかなかできないことを彼らはしてくれた。私は、日本人の悠久な歴史の中で受け継がれてきたもてなしの心と、素朴な生活を深く感じた。私たちに対する信頼と至れり尽くせりのお世話に本当に感謝している。将来また機会があれば、彼らに会いに行き、しっかりお礼を言いたい。

帰宅したら、クラスメートや友人に日本には科学が発展した大都會の他にも、異なる雰囲気や様子の町があることを伝えたい。今度、友人が日本へ行く機会があったら、日本の郊外の県を訪れるよう勧めたい。そうすれば、また違った日本を発見できるだろう。

○日本に来る前、日本人は礼儀を重んじ、ゴミをポイ捨てしないという公德があるというのは嘘だと思っていたし、周りの友人にも日本にはあまり期待しない方がいいと言われた。しかし来てみると、人々は大変礼儀正しく、通りには全くゴミが見当たらなかった。そして、日本人の親切さと善良さは、想像をはるかに超えるものだった。ホームステイでは、ホームステイ先の両親と十数時間一緒に過ごしたただだが、知り合ってから間もないのに、できる限りのことをしてくれ、何がしたいか尋ねてくれた。

専門分野では、アニメや漫画について多くの収穫があった。漫画やアニメなどは娯楽に過ぎず、退屈な時に見るものだと思っていた。ところが、日本のアニメや漫画には日本や世界の文化・知識、例えば「鋼の錬金術師」は「ファウスト」を改編したものであるなど、多くの西洋文学の要素が含まれていると知った。そして、漫画には多くの人を勇気づけ、励ます目的があると初めて知ったので、漫画とアニメについてとても深く理解できた。また、三重県立名張西・名張青峰高校とのテーマ交流でも、多くのことを学んだ。日本の高校生との交流で、彼らの学校の学習状況が理解でき、家庭科や茶道の授業では普段体験できないことを体験できた。更に、日本の高校生とこんなに気が合うとは思ってもみなかった。学校では言葉がすべて通じる状況で一日過ごすというわけではなかったが、日本の生徒は本当に情熱的で、言葉が通じず、意思

疎通も大変だったのに、友達になれたことは本当に不思議だった。

○日中友好会館のスタッフの皆さんの今回の活動に対するご尽力に感謝する。日本の学校の規模は澳門よりはるかに大きく、生徒の自覚意識も高い。例えば、毎日放課後には自主的に指定された区域を掃除している。授業の雰囲気も活発で、学習の雰囲気も良く、授業の内容も豊富だ。課外活動も多彩で、教室の設備の技術レベルも高い。生徒の学習に対する情熱は澳門の生徒が学ぶべき点だ。礼儀正しい態度は香港や澳門の生徒ととても似ている。制服が統一され、生徒の身だしなみも整っている。素朴な校風で、授業中の真面目な態度が深く印象に残っている。生徒たちのノートもとても綺麗だった。日本のことはあまり知らないけれど、彼らの情熱と向学心が見て取れ、これこそ日本が人材を輩出している理由だと思った。以上が帰国後、周りの人に伝えたいことで、みんなにも全面的に日本を理解してもらえらるだろう。教科書やインターネットに限られた情報は、日本の風土や人情を十分表しているとは言えない。なぜなら、肌身で感じたことこそ、その中から得るものがあるからだ。